経済学部・堀ゼミ３年生がお薦めする「経営者が書いた本」（3）

人のあるべき「生き方」をめざせ！

- きょうの一冊：稲盛和夫『生き方　人間として一番大切なこと』サンマーク出版，2004
- この本は、本館 3F 企画コーナーにあります。【請求記号：159/I44】

“皆さんは今、生活が豊かなはずなのに心は満たされず、衣食足りているはずなのに礼節に乏しく、自由なのにどこか閉塞感がある。やる気さえあればどんなものでも手に入り、何でもできるのに、無気力で悲観的になる時はありませんか？”私はときどきそう感じます。あなたも同じ悩みを抱えているなら、稲盛和夫先生の「生き方　人間として一番大切なこと」がおすすめです。

私は中国出身で、６年前に来日し、違った環境と文化の中で、人間関係も、学校もアルバイトも、すべてが新鮮でした。初めて飛行機や新幹線に乗ったり、初めて寿司や天ぷらを食べたり、初めて温泉にはいったり、初めて地震を体験したり、未体験な事がありました。やがて日本語がしゃべれるようになり、大学に進学できたときの喜びもありましたが、友達が作れなかったり、言葉が通じなかったり、勉強がうまくできなかったり、へこんだ時が多かったです。いつの間にか性格までも変わってしまったみたいに、マイナス思考になり、この本に書いたとおりで、無気力で、やる気が出ません。自分なりに努力してみましたが、なかなか思う通りになりませんでした。そんなとき、幸いこの本に出逢いました。

“私たち人間が生きている意味、人生の目的、それは心を高めること、魂を磨くことにある。”今後の人生の座右の銘にしてはいかがでしょうか？確かに生きていくことは苦しいことの方が多いです。へこんだ時には、なぜ自分だけがこんな苦労をするのかと神や仏を恨みたくなることもありました。しかし苦労こそが、人間性を鍛えるための絶好のチャンスです。“試練を「機会」としてとらえることができる人――そういう人こそ、限られた人生を本当に自分のものとしていきていけるのです。”人生は一度しかない、どうせ生きるなら、暗く悲観的な人生より、考え方をひとつ変えて、人生を１８０度回転し、楽しく楽観的に生きたいです。一生懸命勉強や働くことで心を磨き、心の持ち方や求めるもので、人生を現実に形づくりすることなど、挫折をくり返しながらも、人間としてよりよく生きることを懸命に努力しているあなたに、是非この本を読んでいただきたいです。わたしは今、この本を参考に、自分なりの「生き方」を少しずつ確立しています。あなたも「生き方」をもう一度真剣に考えてみませんか？

（評者：平瀬　旭）